

1 3. 特用鶏農家における腓腹腱断裂（青脚）発生事例について

宇佐家畜保健衛生所 1)大分家畜保健衛生所

○大矢真里奈・(病鑑) 吉田史子・(病鑑) 磯村美乃里¹⁾

病鑑 大木万由子¹⁾・(病鑑) 平松香菜恵¹⁾

【はじめに】

鶏の青脚とは腓腹腱断裂に伴う出血で肉眼上脚が青く見えることからその名前がついている。急激な成長や運動で脚に負担がかかったことによる非炎症性腱断裂やトリレオウイルス（ARV）の腓腹腱感染による腱鞘炎―腱断裂が青脚の主な原因とされている。今回、特用鶏農場で起立不能鶏が散見され青脚を呈していた事例に遭遇。ARVの関与を疑い、病性鑑定を実施したのでその概要を報告する。

【農場概要】

当該農場は、特用鶏を11,000羽平飼いで飼養。鶏舎数は4（7～10号鶏舎）。飼養日数は90-100日。

【病性鑑定】

- ① 令和元年8月、9号鶏舎3,000羽（A種鶏場導入）中39羽、10号鶏舎（B種鶏場導入）のうち15羽が食鳥処理場で青脚のため全部廃棄となった。そのため廃棄となった2個体の左脚腱部の病理検査とウイルス検査を実施したが、原因特定に至らなかった。
- ② 令和2年2月、9・10号鶏舎で3000羽中青脚が60羽程度、脚弱が100羽程度発生するため病性鑑定依頼があった。脚弱を呈した9羽を鑑定殺し、病性鑑定を実施。ウイルス学的検査で2/9の足関節液よりARVを分離。細菌学的検査では2/9でブドウ球菌属が分離されたが、マイコプラズマ属菌は分離陰性。病理組織学的検査では7/9で非化膿性腱鞘炎、非化膿性関節炎が確認。診断名は鶏ウイルス性腱鞘炎/関節炎（2/9）、非化膿性腱鞘炎及び非化膿性関節炎（5/9）、脚弱の原因不明（2/9）。
- ③ 令和2年5月、鶏群の抗体保有状況調査と鶏舎の環境材料を用いたウイルス検査を実施。7号鶏舎の鶏群（80日齢）でUchida株、TS-17株、TS-142株に対する高い中和抗体を確認。9号鶏舎（16日齢）の鶏群で移行抗体陰性。鶏舎内環境材料にてARV分離。これは②で分離されたARVと系統が一致。この結果に基づき、堆肥の一掃や定期的な消毒等の対策を講じた。
- ④ 令和4年1月に実施した病性鑑定にて3羽の腓腹腱からARVは分離されなかった。

【まとめ・考察】

令和2年5月実施の病性鑑定の結果を基に対策を講じたところ、令和4年に実施した病性鑑定において、ARVは分離されなくなった。しかしその後も依然として脚弱や青脚の発生が続き、食鳥処理場での廃棄率が高いことから、当該農場の青脚は病原体のみが起因となっているわけではなく、飼養管理等の影響も考えられる。今後も消毒実施等によりARVの汚染を防止、飼養管理を確認し青脚発生の低下を目指していきたい。